



### 自転車も安全運転を

#### 菊陽西小学校「交通安全教室」

菊陽西小学校(池田一也校長)は5月1日・12日、寺原自動車学校指導のもと、交通安全教室を行いました。児童は道路や横断歩道の渡り方、自転車の乗り方を学びました。同自動車学校の宮原禮次さんは「小学生が起こした自転車の衝突事故で高齢者が意識不明の重体になり、1億円近い賠償を求められた事件もある。6月1日から自転車の取り締まりも強化され、信号無視や右側通行なども違反の対象に。集中して運転し、車や歩行者を確認してほしい」と話していました。



▲校庭で自転車の安全な乗り方を学ぶ児童

### 健やかに育てね

#### 子どもの日牛乳プレゼント

菊陽町の酪農農家を中心に運営している熊本市酪農農業協同組合が4月28日・30日、5月1日、町内の保育園と幼稚園に牛乳をプレゼントしました。

これは、幼少期から丈夫な骨をつかってほしいという目的で行われている牛乳消費拡大キャンペーンの一つ。毎年5月5日の子どもの日の前に行われています。牛乳をもらった園児たちは「牛乳ありがとうございます」とお礼を言い、おいしそうに給食の時間に飲んでいました。



▲牛乳を受け取り、お礼を言う園児

### キャロピアに最新大型テレビ

#### ソニーセミコンダクタ(株)熊本TECが寄贈

ソニーセミコンダクタ(株)熊本TECから、光の森町民センター「キャロピア」に大型テレビが寄贈されました。

寄贈されたのは、大画面で見ても細部までキレイな画質を実現している最新の55型4Kテレビ。町民センターでは、西部支所前の待合スペースにテレビを設置しています。来所者は住民票や所得証明書の発行、転入・転出などの手続きの待ち時間などに視聴していて、「大きくてきれい」と大変好評です。



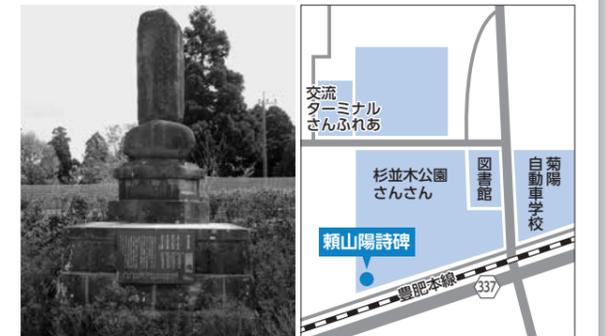
▲寄贈された最新大型テレビを視聴する来所者

### 菊陽杉並木に感動した漢学者

#### 頼山陽詩碑を移築

県道337号線杉並木沿いにあった頼山陽詩碑が3月31日、歩行者の安全確保のため、杉並木公園南ゲートに移築されました。

頼山陽は江戸時代後期の日本を代表する漢学者で歴史・文学・芸術などさまざまな分野で活躍しました。詩碑には、文政元年(1818年)に九州各地を巡る旅に出た頼山陽が肥後熊本から豊後竹田へ向かう途中に豊後街道菊陽杉並木の景観に感動して詠んだ詩が刻まれています。ぜひお立ち寄りください。



▲頼山陽詩碑

▲位置図

### 笑顔満開 絆深める

#### 中学校体育大会

爽やかな五月晴れの中、菊陽中学校(浦田安之校長)と武蔵ヶ丘中学校(岩下昭彦校長)の体育大会が5月17日、それぞれのグラウンドで行われました。

生徒たちは、元気に入場行進し、団ごとに分かれて競技を開始。短距離走やリレー、ダンス、玉入れ、部活動紹介、応援合戦などの競技や演技が次々に繰り広げられました。

生徒たちのいる応援席では、それぞれの団で作った歌や踊りで力いっぱい仲間を応援。元気な掛け声が空高くグラウンドに響いていました。

グラウンドには、カメラやビデオで雄姿を収めようとする保護者や地域の人々、号令や進行に汗を流す先生たちの姿も。これまで練習してきた成果を発揮し、一致団結して頑張る生徒たちに温かい声援や拍手を送っていました。

応援に応えるように、一丸となって声を張り上げたリパフォーマンスをしたりと爽やかな汗とまぶしい笑顔で競技に臨む生徒たち。晴れ渡る青空の下、学年を超えて絆をより深めていたようでした。



1力いっぱいタイヤを奪い合う「タイヤ取り合戦」2まぶしい笑顔でダンス3思いもつなぐリレー4息を合わせてゴールを目指す

### 長年の功績をたたえる

#### 退任人権擁護委員に法務大臣感謝状贈呈

法務大臣感謝状贈呈式が4月20日、菊陽町役場で行われました。贈呈されたのは人権擁護委員を退任した西田眞志子さん(在任期間3期9年)。長年の功績に対して感謝状が贈られました。

西田さんは「みなさんと一緒に啓発活動や人権相談を行い、多くのことを学びました。共に学び合い、人権の輪を広げていくことができました。これからも高齢者が安心して生活できるよう尽力していきたいと思っています」と受賞の喜びを話しました。



▲人権擁護委員に囲まれ、笑顔の西田眞志子さん(中央)

### 愛する菊陽町

#### 香雲堂吟詠桜箏会創立35周年第60回温習会

香雲堂吟詠桜箏会創立35周年第60回温習会が4月5日、熊本市で行われました。ここで原水支部は「菊陽町の旧所名所」をテーマに関連する詩を吟じました。六道塚や鉄砲小路、馬場楠井手の鼻ぐり、菊陽杉並木、頼山陽詩碑について、それぞれ説明し、関連する詩を吟じると、訪れた観客は「菊陽町にこんなに名所があったなんて知らなかった」と驚いていました。同支部の山内彰雄さんは「私たちが愛する菊陽町について知ってもらえてうれしい」と笑顔で話しました。



▲町に関する詩を吟じる原水支部の皆さん